東北石巻ボランティア活動について

工事部　　堤伸二

決済
23.6.17
今村

はじめに石巻市に到着して、現状を見たときは何もないなと感じました。海沿いの女川は特に酷く瓦礫の山でした。少し離れたところでも浸水被害がひどく家の下地以外何もない場所も数多くありました。家に火が付いたまま流されそのまま火事になることも多かったそうです。地震よりも津波の二次被害が大きかったのだとあらためて感じました。現状を見て自分に何が出来るのか不安でした。ボランティアセンターに到着して受付をして周りを見渡すとテントが数多くありこれだけの人がボランティア活動をして復興作業に関わっているのだと感じました。

活動初日天気は晴れ。グループは10人でリーダーは1か月前から活動をしている人に引き受けてもらいました。現場は個人宅の泥かき作業が主な仕事で、スコップと土嚢袋を手に取りひたすら土を掘る作業でした。土を掘ると黒いヘドロが出てきました、ヘドロの原因は津波の被害で土の上に汚れがたまりそれがヘドロとなっているのだとリーダーに教えてもらいました。家の中は浸水被害で窓は割れ人が座れないほど汚れていました。今回の作業は泥だしと家の中の掃除を主に作業を任せられました。一人ひとりが作業を分担することにより、作業速度が増し、予定通りに完了しました。そのとき自分は連携部分の一部でしたけど、みなさんと一体感となる事で自分もボランティア活動に参加していることを感じることが出来ました。

活動2日目天気は雨のち曇り。グループは20人でお寺の泥だし作業に参加しました。昨日の個人宅とは違い1日で、どこまで出来るのかわからないぐらい手つかずの状態でした。振り分けは、泥だし班と掃除班に分かれ作業を開始しました。お寺の裏側に回ると津波の被害で家が流れ着いたり瓦礫が散乱したりしてここでも津波の影響を思い知らされました。泥を掘っても元々の高さの場所までなかなか掘れなく大変な作業でした。泥を掘るとにおいがすごく、それでも石巻の方々は住まなくてはいけないと聞いて一日も早くこの作業だけでも終らなせなければと思い悔しい思いをしていたところ、ボランティアの方が作業は継続してやっていくことに意味があり、その時の連携や一体感が得られるからボランティアというのは続けられる。と教えてもらいました。その時この2日間は無駄ではなかったのだなと、一人じゃ何も出来なのではなく、一人でも何かしていく事に人が集まり個体から集合体になり、復興の足掛かりになっていくのだなと思いました。

今回の活動を通じて、継続は力なりという言葉が、出てくるようになりました。ボランティアに参加して、出来ることは少なくても、積み重なっていけば、大きな力になっていき出来ないことは何もないと思うようになりました。この事を仕事でも生かしていき、継続を続けることで、一日も早く一人前になりたいと思います。